

樫谷議員 おはようございます。通告してありました2点について、タクシーチケット、そして、乳がんについて質問させていただきます。まずタクシー補助制度今後の見直しについて質問します。補助制度として80歳以上の方々にタクシー補助チケットを設けていますが、今年度いっぱい試験的に行った成果はどのような結果が出ているのでしょうか。高齢者の方々からは「本当に助かる」との声が聞かれます。しかし、80歳を迎えていなくても、要支援者や介護支援者の方々にタクシー補助制度の手を差し伸べてはどうか。また、特別養護老人ホームなどは、介護3以上でなければ施設には入れなくなりました。在宅訪問やデイサービスの援助は受けられますが、単位制度もあり、今度の改正ではヘルパーのサービスにもできなくなる部分が出てきています。さらに、毎日サービスを受けられるものではありません。その間、自宅で生活しなければなりません。要介護1・2、介護1・2の方々、さらに、高齢者の中で80歳未満で自動車の免許の返還をされている方などへも、今後は対象の枠を拡げてみてはどうか。約9か月間、実施した結果と今後の課題についてお聞きします。つぎに乳がん早期発見に向けてに移らせていただきます。女性の11人に1人が生涯で罹患する乳がん、近年、マンモグラフィー検査するだけでは、異常が発見しにくいタイプの乳がんがあることがわかりました。乳がんには、乳腺密度が高い順に①極めて高濃度、②不均一高濃度、③乳腺散在、④脂肪性のタイプと4つに分かれます。①極めて高濃度と②不均一高濃度は「高度乳房」と呼ばれ、マンモグラフィーでは、全体が白く写り、同じく白く写る腫瘍が発見しにくい。つまり、マンモグラフィーだけでは、しこりが見えないということです。乳房の異常に見つけにくいマンモグラフィーの弱点を補うと期待されているのが超音波です。東北大の調査では、超音波を兼用した場合、マンモ単独よりもがん発見率が1.5倍になったとあります。家族に乳がんの人がいるなどで、発症リスクの高い人は磁気共鳴画像(MRI)なども含めた検診メニューを選択できるよう検討してはどうか。定期健診を受けて、異常がないと安心していても関わらず、見つかった時には深刻な問題になっていたという症例もあります。悪性度の高い「がん」は進行度が早く、今の検診だけでは見つ

かりにくいのが実情です。神山町では、乳がんの早期発見や自己診断の大切さを啓発する「おっぱいリレー」やピンクリボン運動が進められています。ピンクリボン運動は、全国的に繰り広げられていますが、牟岐町ではどうなのでしょう。ピンクリボン運動の発祥地は、アメリカの乳がんで亡くなられた患者さんの家族が「このような悲劇が繰り返さないように」と願いを込めて作ったリボンからスタートした乳がんの「早期発見・早期治療」の大切さを伝える運動です。これからの定期健診に選択メニューを広げてはどうか。また、定期健診はどれぐらいの受診率でその結果はどうなのか。今後、エコー検査、MRI、CTなどの検査の幅広い選択肢の有無をすべきと考えますが、町長の見解をお聞きします。以上、2点について、答弁をおねがいします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 まず、本年度から実施いたしましたタクシー利用助成事業についてですが、これまでの結果を申し上げますと、11月末現在で、80歳以上の対象者の方が790人のうち366人、割合にして46.3%の方が申請に来られており、助成券の使用枚数は、2,996枚、金額にして89万8,800円で、1人当たり換算しますと、8枚程度の使用頻度となります。毎月400枚程度が使用されていますので、今年度末までの実績としては、4,500枚から5,000枚程度になると予想されています。1人当たりの使用枚数にすると13枚程度になると思われます。なお、心配していましたタクシーの台数による使用頻度の限界については、両タクシー会社からは、現時点まで利用する人が重複するなどの問題はないとの報告を受けています。以上の結果より、80歳以上の対象者のうち、申請に来られていない約半数400人程度の方は、施設入所者、あるいは寝たきりや自力でタクシーを利用することが困難な人、また自家用車が運転できる人や家族が送迎できるなどの交通手段のある方ではないかと考えています。1人あたりの配布枚数については、個人毎の使用頻度は異なりますが、平均的には年間13枚程度と予想されることから、配布枚数24枚で足りているものと判断しています。また、対象者への助成制度の周知ですが、申請受付は年間を通して行っていますが、ほとんどの方が4月・5月で申請しており、9月以降はほとんど申請がなかったこと、また、80歳以上の方やその家族等から助成制度への問い合わせ等もほとんどなかったことなどから、ある程度周知は図られているものと考えています。しかしながら、高齢であるため助成制度を理解さ

れてない方もおいでだと思いますので、来年度以降も各種機会をとらえ、周知徹底を図ってまいりたいと考えています。つぎに議員ご質問の80歳以下の要支援及び要介護1・2の認定者への対象枠の拡大についてですが、この助成事業の目的は、海部病院高台移転に伴い通院に支障がでる方、つまり、自ら自家用車の運転や家族等の送迎ができない方、また場所が遠くなったことでの通院等が困難となる方などの交通弱者に対し、その支援策としての助成を行う制度です。したがって、介護保健事業として行うサービスとは趣旨が異なりますし、介護認定者は、介護なしで移動することが困難と判断される方が多数を占めると考えられることから、介護認定者については、訪問介護事業所における通院等の送迎サービスを利用させていただきたいと考えています。つまり、タクシー助成制度の対象者については、その趣旨から、介護認定者の有無で判断するのではなく、単純に対象年齢だけで判断するべきであると考えています。ちなみに75歳から79歳の方が約360人、70歳から79歳の方が770人と、80歳以上の方とほぼ同じ数になります。つぎに免許の自主返納につきましては、警察で確認したところ、28年度は牟岐町で12人の返納者があったとのことでした。自主返納者につきましては、交通事故防止の観点からもタクシー助成制度の対象者とするのは、前向きに検討して考えています。以上、近年、元気な高齢者が増えていることや高齢者の免許保有率が高くなっていること、また、南部バスによる運行ルートに海部病院の停留所を設置していただいたこと、あるいは、財源的にも一般財源での費用であることなども考慮し、今後、十分に検討してまいりたいと考えています。つぎに、乳がんの早期発見についてですが、現在、乳がん検診については、年間2回の集団検診と個人健診で、マンモグラフィーを実施しています。議員ご指摘の選択メニューについてですが、課題として、この3つの検査方法は、現在のところ、医療の健診目的のメニューにはなっておらず、診断等により疑義がある場合に、つぎの精密検査のメニューとして実施されています。また、現在、マンモグラフィーの読影が難しい場合は、つぎの検査としてエコーを行っており、最初から健診としてのエコー検査を実施してはいません。現在、試験的にモデル事業としてエコー健診を実施している市町村が全国で70箇所あるとのことですが、四国にはありません。また、エコー検査の場合でも、検査技師、医師の技量や能力による見逃しが懸念されるようです。現在、徳島県総合健診センターの乳がん健診マンモグラフィーでの発見率は、全国的に非常に優れているとのこととして、毎年3位以内で、今年は1位であったとのことでした。したがって、総合健診センターによりますと、現在は、マンモグラフィーだけの健診で十分発見できているとの見解ですが、マンモグラフィーとエコー検査の併用は1.5倍の効果があるとのこととして、今後の対応に向け準備しているとのことですので、今後とも、できるだけ安価で効果の高い健診方法を、模索検討して参りたい

と考えています。よろしく申し上げます。

枅富議長 榎谷議員。

榎谷議員 町長がおっしゃられましたタクシーのチケットなのですが、介護1・2については、もちろん、おっしゃられたように介護事務所の方で使われると思うのです。要支援1・2については、枠が限られていますので、そういうことに使いますと、他のものに使えなくなる。例えば、来てもこれ以上使えないという枠があります。それにタクシーを使うと、殆ど家の中のことができないということなのです。要支援1・2ぐらいはタクシー券を使っていただくような方向にはならないかということです。それと、今、言いましたけど、ここ9か月の実施された中で、どういった声が聞かれましたか。使っている方、私の方には、「本当に助かる」というふうな声が聞こえてきているのです。そういう声も聞ければいいかと思います。もう一つのピンクリボンについては、ピンクリボンの運動を牟岐町が行われているのかという質問に対して答弁をいただいていません。もう一つは、エコー検査、これはマンモグラフィーをしまして、精密検査が必要であるというような方だけにしかこないのです。窓口で心配な方はエコー検査も受けられますよというふうな枠を拡げてほしいということを言っているのです。何回も言いますが、マンモグラフィーは、写らない部分があるのです。牟岐町でもこれで亡くなっています。乳がんで、そういうこともありますので、本人が選択できるぐらいの枠は拡げてほしい。心配だったらエコー検査もしますかというぐらいの枠は拡げてほしいということです。今のマンモグラフィーだけでいいというふうな判断ではなくて、もっと枠を拡げて本人の選択も拡げてやってほしい。特に海部郡の方で乳がんで亡くなられている方はリスクが非常に高くなりますので、マンモグラフィーをして異常がなかった、安心だと、1年間受けないわけなのです。その1年の間に、もしあった場合は、もう進んで手の施しようがない。そのマンモグラフィーに写ったときには、もうどうしようもないような形になっているのです。それを早期発見ということで、その枠を拡げて本気に説得させるというふうなことで

やっていただきたいと思うのですが、以上再問します。よろしくお願ひします。

枅富議長 福井町長。

福井町長 まず、タクシー券の利用についてですけど、議員、ご指摘のとおり、要支援の方は介護サービスが利用できないと、利用した場合に、その後の支援が非常に厳しくなるということです。先程の答えは、現在の80歳を75歳、あるいは70歳まで引き下げてやればどういうふうになるかということも含めて、今後、要支援の方も年齢の方でカバーできるのではないかということも含めて検討してまいりたいということです。それと乳がんのピンクリボン運動を牟岐町でやっているかどうかということですけど、これは把握できていませんので担当課長からお答えさせていただきます。それとご指摘のようにマンモグラフィーと超音波を併用してやるということを総合健診センターでも、今、検討していますのでそういうふうな検討結果も踏まえて牟岐町では両方併用できるような方向で考えてまいりたいと思いますので、どうかよろしくお願ひします。

枅富議長 久岡健康生活課長。

久岡健康生活課長 先程、議員ご指摘のピンクリボン運動という周知していつて検診を受けてくださいというような広報関連になると思うのですが、乳がんに関しての積極的な広報というのは、現在できていません。これから逆に教えていただいたような形なので、これから啓発の部分については、対応していきたいと考えます。それと、先程、現在の実績というようなこともありましたので、こちらで説明させていただきます。平成29年度の集団検診の料金なのですが、1人5,708円、自己負担で1,000円いただいています。町費としては4,708円支出していると、個人検診、病院の方へ行っていただくと

というのが、1人当たり7,556円になります。こちらは自己負担は1,500円いただいています。町費としては6,056円となります。両検診とも集団も個人も節目クーポンということで、40歳以上、40歳、45歳、50歳ということで、節目にクーポン券をお渡しして無料とさせていただいているのが現状です。検診の実績としましては、昨年28年度については、集団検診で102件、個人検診で病院へ行かれた方は16件あります。今年、平成29年度におきましては、集団検診が97件、個人検診が12月6日現在ですが、12件、先日、一つ請求書がまいりましたので、現時点は13件ということになっています。集団検診の方は既に年に2回していますが、終了していますので、あとは病院へ行っていただく個人検診がこの3月までにどれだけ行っていただけるかということになろうかと思えます。それと、先程のモデル事業、全国で厚生労働省がモデル事業として行っていますエコー検診なのですが、全国では70箇所で行っていきまして、四国ではゼロということでした。これがどうしてこういうことになっているのかと申しますと、40歳代の女性の方で2,000人以上というところに対してのモデル事業を行っているようです。うちの場合は、その時点で対象外となってしまうのですが、今、そのモデル事業の結果も踏まえまして、健診センターに確認したところ、そのマンモグラフィーで読影が難しかったという場合にエコー検査で見てみましようかというふうになっていますが、今、マンモグラフィーとエコー検査の併用というのが1.5倍の発見率になるということですので、今、その対応をできるように健診センターも準備している状況ですという回答でした。その様子を注視しながら対応に向けて動いてまいりたいというふうに考えています。病院に行ったときに、先程、おっしゃられていた病院の方でエコー検査もどうですかということなのですが、心配な方については、やはり保健師の方に相談がまいります。相談を受けた段階で病院に行くのだから、マンモグラフィーもそうだけど、エコー検査も心配だったらどうですかというようなことは伝えていますが、ただ、マンモグラフィーについては、自己負担1,500円で済むというようなことをしているのですが、エコー検査については、費用面についてできていません。行っ

た方の保険を使って受けていただくというふうな状況ですので、相談を受けた段階では、エコーもどうですかということで、お伝えはしています。現時点では以上です。

枅富議長 梶谷議員。

梶谷議員 答弁ありがとうございます。タクシー補助券チケットについては、先程、町長もおっしゃられていましたけれども、特に要支援の方々のタクシーチケットの枠を拡げて考えていただきたいと思います。それから、乳がんの方ですが、エコー検査もできるだけ多少の補助金でも出るような方向にさせていただいたらありがたいと思いますので、今後、早期治療、早期発見ということで、ピンクリボン運動もかねてやったら、自己判断でやるということも再度見ていただくということで、啓発にもつながっていくと思いますので、そういったことも運動もかねてやっていただきたらと思います。神山の方は実質にがんのできているものを持ってきて、触ってこれがそうなのだということも、触らなかつたらわからないです。本当は自分でお風呂あがりとか、お風呂に入るときにするというのも一つの方法なんですけど、なかなか自分では判断しにくいところがありますので、そういったことでピンクリボン運動をしていくことによって、自己啓発、早期発見、早期治療に向けて、ぜひともこれからもがんばっていただきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。以上、私の一般質問を終わらせていただきます。